



各テーマについて皆さまのご意見をうかがうコーナーです

●今回のテーマ クラブの合併は 必要か？

会員個人レベルの奉 仕活動に貢献するか

福岡イブニング 守田 則一

合併は何のためにするのか。それはロータリーの理念と綱領の下、奉仕の実践を推進することを前提にしなければならない。ロータリークラブは個人レベルでの奉仕活動を支援する組織であり、組織として奉仕活動を行う他の奉仕団体とは異なる。

合併を是とする場合、その目的、組織の活性化、実績の向上、安定性とさらなる発展に貢献し新

しい価値が生み出せるかなどの検討が必要条件である。

合併により会員共通の関心やイデオロギー、すなわちクラブの風土（会員の意識）や、量的変化と質的变化が相殺の関係にならないこと。その適正会員数や、奉仕の原点である例会出席率の向上と親睦に貢献するか、職業分類のバランスが向上するかなどの課題を議論せず、やみくもに生き残りを掲げる企業などの合併論と同じ次元の論理では、ロータリーの神髄である個人レベルの奉仕の実践を阻害することになる。

クラブの活性度と実績はこれら諸々の条件で変化し、相互に正比例する関係ではありません。単に経済的基盤の脆弱性に基づく合併論ならば、それを是とするに値しない。クラブが消滅すれば、奉仕の実践そのものが無に帰すことを否定するものではないが、ロータリーの理念を離れ、個人の奉仕活動を阻害するのであれば自殺行為に等しく、その合併論は全く意味をなさない。まずは、所属クラブに新しい価値を作っていく努力が先決である、と私は考える。

（第二七〇〇地区 福岡県）

一定水準の 会員数確保が大前提

高崎東 豊泉 清

全国には、会員数が一〇〇人を超える大型クラブから、数人の小型クラブまで規模のばらつきが大きい。円滑にクラブ活動を続けるためには、一定水準の会員数を確保することが大前提、と考えられる。

ここで、例えば話を披露してみた。自動車が高速運転を目指すには、直線の組み合わせよりも流線型にするほうがエンジンの効率も良くなる。性能の良い車は見た目も美しい。高機能を追求して設計すれば、おのずからデザインも落ち着くところに落ち着くものである。

つまり、機能と形態は表裏一体の関係にある、と言える。ロータリークラブの機能と規模も、これと同じ関係にある。

活気のある活動を機能と位置づければ、会員数は形態と見なせる。つまり、高度の活動を維持するためには、一定数の会員の確保

が必要条件となる。会員数が少なくても存在するよりは、まとまった会員数を確保して高機能を発揮するため、合併という手段が最善の選択肢と結論できる。

話題が少々脱線するが、多くのクラブに事務局があり、それぞれ事務局を雇っている。ひと昔前と違って、電話、ファクス、メールなど高度に発達した情報伝達手段が簡単に使える現代社会では、複数のクラブを統括する事務局が何か所あれば、十分に用が足りると思われる。

私はクラブよりも事務局の合併を先に実現させるべきだとも感じている。

（第二八四〇地区 群馬県）

合併で、クラブの 価値を高める努力を

東京小石川 武田 康弘

一〇年ほど前には約一三万人いた国内の会員が、現在九万人弱に減少しています。つまり約一〇年で三〇割以上会員が減少、そこで会員増強となるわけですが、会員

が減ったから増強すればいい、という考え方はあまりに短絡的で信用できません。そこで、会員減少の根本的な理由を考えてみたいと思います。

ロータリーは、アメリカで生まれたクラブです。かつてのアメリカは自由と民主主義の理想を追う、憧れの国でした。日本に入ってきたロータリークラブは自由と民主的な雰囲気、奉仕の精神を顕揚した、まさにアメリカの象徴でした。その憧れと理想に引かれて、日本の名士たちは競って会員になり、ロータリークラブに新たな時代の理想を投影しました。

しかし、一九八〇年代以降、アメリカは自由と民主主義の理想を掲げるより国益中心の姿が目立つようになり、その後も国益最優先の傾向は強まるばかりです。二〇世紀の自由と民主主義の理想の国アメリカも、今は随分色褪せています。

それでも、日本で二〇〇〇年頃まで会員が増え続けたのは、タイムラグなのかもしれません。もちろん、アメリカの姿の変化だけでなく、説明できるわけではありませんが、ロータリーが繁栄した理

由は精神的価値と会員の人格への憧れであったように思います。

ロータリーの精神は、地域と時代を超えた普遍的な価値です。多くが自分の利益を追求する時代にあつて、ロータリーは普遍的な精神価値を追求する名士の集まりとして、尊敬と憧れの対象であつてほしいと思います。

クラブの会員減少でクラブ活動が存続できなくなった場合、無理な会員増強よりも合併によって存続し、クラブの価値を高める努力をする方が、長期的には良い結果を生むように思われます。

（第二五八〇地区 東京都）

脱退よりは合併を

八潮みらい 伊藤 祐嗣

私たちのクラブは今年二月二三日、事実上、三つのクラブが合併し、クラブ名も新たに誕生しました。

創立以来、個性を持って運営してきた三クラブが合併し、うまく融和が図れるか否か、との声もありました。しかし、それらはこと

ごとく杞憂に終わりました。

例会は活気と楽しい雰囲気になったものに生まれ変わりました。心配された軋轢はまったくありません。三クラブの全てで、会員数の減少に伴う重苦しさから解放された気持ちです。

ここ一〇年余り退会者が続き、奉仕活動をするにも人員面、予算面で支障がありました。

『二〇一〇年手続要覧』の「新クラブ」の項には「新クラブは最低二五名の創立会員を有していなければならぬ」とあります。これは活動していくには、最低限このくらいの人数は必要という意味で、創立後、何人に減ろうがやっつけていけ、ということではないと思えます。

「会員増強の努力が足りない」という叱咤の声も聞こえます。しかし、地区の会員数が減少の一途をたどる中、どのクラブも会員増強を続けるというのは無理な話です。会員数が二〇人を切ったらデッドラインです。国際ロータリーからの脱退を選択するよりは、合併を考えるべきです。

ただし、当該クラブの会員の同意と、過去の記憶を引きずらず、

全く新しいクラブを立ち上げようとする気概が必要なのは、言うまでもありません。